

関内地区 地域緑化計画書

計画名：関内地区市街地緑アップ計画

推進団体名：関内地区市街地緑アップ推進会



地区の範囲



<p>計画期間</p>	<p>平成28年度 ～ 平成30年度</p>
<p>計画概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 横浜のシンボリックな中心地である関内地区において、多くの観光客、来訪者を迎え入れるに相応しい、潤いのある街並形成を目標に、街路緑化、目立ちつつ有るコインパーキング、防火帯建築等、地区の特徴ある建物の緑化をネットワーク的につなげ、街の活性化につなげていく。 ● 馬車道通りから山下公園とつなぐ重要な回遊動線である海岸通りは植栽帯が未整備な状態であるが、この通りを官民協力して、花と緑の通りとして住民が主体となって、維持管理を行い、賑わいを演出するとともに、この動きを関内全体に広げていく。 ● 関内地区では、約 50 箇所のコインパーキングがあり、街並形成上課題となっている。これらを緑化によって潤いある景観形成の一助とする。 ● 山下公園～日本大通りという緑の軸にネットワークさせ、新市庁舎方向への緑の軸線を形成させる。 ● 観光客が多い横浜のシンボリックな街路に相応しい、特徴的な緑化を行う。
<p>立地環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 町会が主道路に平行し、東西方向単位で形成されているため、まちづくりとしての南北方向の総意形成が図られ難かったが、緑アップを通じて、縦横にまちづくりの連携を図る。 ● 海岸通2,3,4丁目の道路両側の植栽帯が断続的となっている。また、沿道には日本郵船歴史博物館、横浜税関、農協ビル等の歴史的建築を始め、県警等公共施設や民間企業等が多く立地し、港のイメージを持つ代表的ストリートである。 ● 空地、コインパーキングが増えている。 ● 公園がなく、緑や休憩所が少ない。
<p>計画の効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 緑化によって、街の魅力を、最も早く、経済的に高める。観光客、来訪者が心地よく歩ける街並を形成し、活性化につなげる。 ● これまで接点が少なかった地域の企業就労者や公共施設と住民が、一緒になって緑の植栽や維持管理の共同作業を行うことを通じて、コミュニティーの活性化や地域交流の場となる。 ● 街中に広がるコインパーキングを景観上改善するモデルとして周辺、他都市に普及することが期待できる。 ● 平成29年3月から開催される、全国緑化フェアで、会場間をつなぐ、補助導線を形成する。

<p>計画期間中の 仲間づくり・資金</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 関内地区連合町内会、関内まちづくり振興会が中心となり、各自治会、町内会及び周辺企業や団体の協力を得て、「関内地区市街地緑アップ推進会」が結成された。 ● 会員からは会費を徴収するほか、寄付金を広く要請し自己資金とする。 ● 寄付者の名前等と入れるメッセージ花壇や記念樹による寄付金の検討 ● 植栽や維持活動に勉強会やイベント等を企画し、活動をPRして仲間を増やしていく。 ● 市内の大学、大学生に企画提案を働きかけ、実施に向けても協力を得る等、若者世代の参加を得ていく。
<p>計画期間終了後の 仲間づくり・資金</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「関内地区市街地緑アップ推進会」を中心に、さらに海岸通り中心の自治会である「海街自治運営会」とその周辺団体で「ハマロードサポーター」に加入し、協力と交流活動を通して、賛同者を拡げ永続的に維持していく。 ● 具体的な協力の輪を広げるために、広報等を通してクラウドファンディング等を検討する。
<p>創意工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 植物は、定期的に住民が植栽する花壇と、国際色豊かな横浜ならではの、在来、外来の品種もの園芸植物などを取り入れ、外国人を含む、観光客の多い地域に相応しい、特色と品格のある植栽計画とするため、地域や多世代の意見を取り入れる活動を行う。 ● 花と緑の講習会の開催と緑化実験（花木、植栽、手入れ等の学習と技術習得）を行う。 ● イベント活動等（来街者も含めた人々の花と緑への意識向上活動）

計画年次	計 画 内 容
1 年度目 (平成 28 年度)	<p>[民有地の緑化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 海岸通の緑化： 既存の柵内側、道路沿いに、プランターで植栽帯を形成する。一部の沿道の民地部分も、通りに呼応するように植栽する。植栽帯の幅が限られている部分は、ハンギングやフェンス緑化を行う。 ● コインパーキングの緑化： 計画地域内のコインパーキング他、駐車場の数カ所を、地権者、管理者の協力のもと、フェンスや沿道に緑化を施す。 ● 防火帯建築等地区の特徴ある建物の壁面緑化： 計画地域内の適応可能な、防火帯建築等地区の特徴あるビル壁面（バルコニー部分）を、ハンギングポット、登攀ネットなどを使い緑化する。 <p>[地域緑化活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 広報（HP、ニュース、ポスター等）、講習会実施、道具類の整備を行う。
2 年度目 (平成 29 年度)	<p>[民有地の緑化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 海岸通の緑化： 1 年度目の計画を継続する。 ● コインパーキングの緑化： 1 年度目の計画を継続し、さらに新たなコインパーキングを緑化する。 ● 防火帯建築等地区の特徴ある建物の壁面緑化： 1 年度目の計画を継続する。 <p>[地域緑化活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 整枝剪定、施肥、防虫処置、枯損部の補植等の管理活動を適宜行う。 ● 広報活動の拡大、講習会、イベント（来街者も含めた人々の花と緑への意識向上活動）等を実施する。 ● コンテスト等を実施し、優れた緑化事例に対して表彰する。
3 年度目 (平成 30 年度)	<p>[民有地の緑化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 海岸通の緑化： 1、2 年度目の計画を継続する。 ● コインパーキングの緑化： 1、2 年度目の計画を継続し、さらに新たなコインパーキングを緑化する。 ● 防火帯建築等地区の特徴ある建物の壁面緑化： 1、2 年度目の計画を継続する。 <p>[地域緑化活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 整枝剪定、施肥、防虫処置、枯損部の補植等の管理活動を適宜行う。 ● 広報活動の拡大、講習会、イベント（来街者も含めた人々の花と緑への意識向上活動）等を実施する。 ● コンテスト等を実施し、優れた緑化事例に対して表彰する。
計画期間 終了後	<ul style="list-style-type: none"> ● ハマロードサポーターによる緑の維持管理を継続する。 ● 寄付やクラウド・ファンディングなどを使い、資金を集め、新たな緑化を継続する。 ● 計画地域内の各町内会、自治会からの会費を維持管理にあてる。

横浜の中心地で、屈指の、歴史的、観光資源の集積地であるにもかかわらず、緑地が乏しく、コインパーキングが目立っている。

① 「海岸通り」歩道の緑化

とりわけ、シンボリックで、観光客の往来も多い、「海岸通り」の歩道両側は、植栽帯が断続的となっている為、緑化の効果が高い。



現状



整備イメージ

② コインパーキングの緑化

関内地区に50箇所あまり(計画範囲内に17箇所)もある、コインパーキングは、街の景観を損ねているため、フェンスや周縁を緑化する。



現状



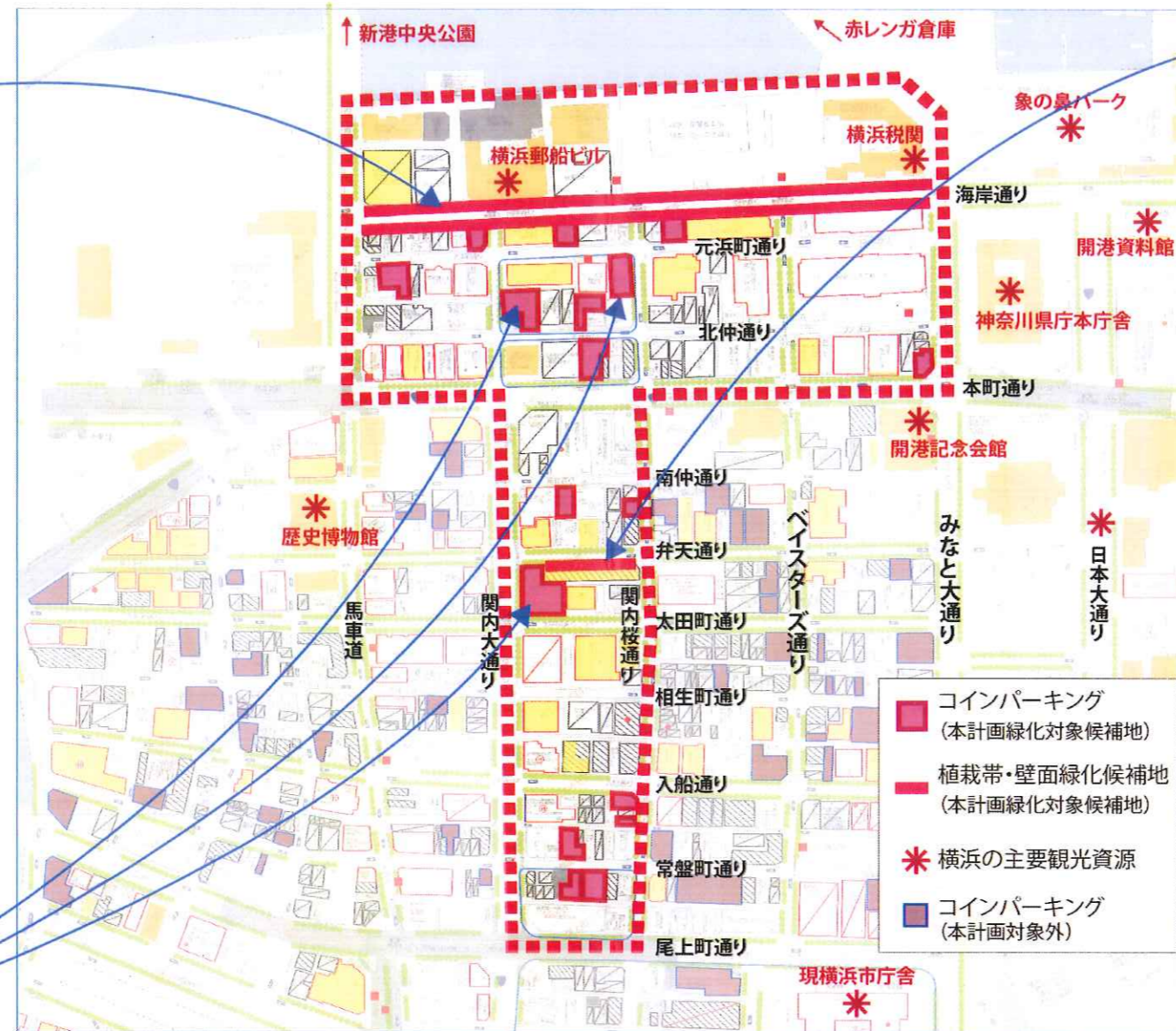
整備イメージ



現状



整備イメージ



③ ビルの壁面緑化

防火帯建築等地区的特徴あるビルや、通りに対して大きな面を持つビルの壁面をプランター等を用いて、一体的に緑化することで、街の景観を向上させる。



現状



整備イメージ

概算事業費（単位：千円）^(注1,5)

助成項目	細目	1年度目（平成28年度）	2年度目（平成29年度）	3年度目（平成30年度）	項目ごとの合計	※【参考】 助成率・助成金額の上限	
1 民有地緑化	①設計等経費	800	200	200	1,200	100%以内	
	(主な内容) 海岸通り植栽帯設計、コインパーキング緑化設計、既存ビル壁面緑化設計		海岸通り植栽帯設計、コインパーキング緑化設計、既存ビル壁面緑化設計	海岸通り植栽帯設計、コインパーキング緑化設計、既存ビル壁面緑化設計			
	②緑化整備等経費 ^(注2)	3,600	4,500	4,500	12,600	90%以内	
	(主な内容) 海岸通り植栽帯設計工事、コインパーキング緑化工事、既存ビル壁面緑化工事		海岸通り植栽帯設計工事、コインパーキング緑化工事、既存ビル壁面緑化工事	海岸通り植栽帯設計工事、コインパーキング緑化工事、既存ビル壁面緑化工事			
2 景観木保全	①調査費	0	0	0	0	100%以内	
	②診断書作成費	0	0	0	0	100%以内 (上限20千円/本)	
	③治療費	0	0	0	0	③と④は各景観木1本につき、合計50千円以内	100%以内 (上限50千円/本)
	④環境整備費	0	0	0	0		100%以内 (上限50千円/本)
3 地域緑化活動 ^(注3)	①維持・管理費	660	660	660	1980	①～④の合計1,000千円以内/年度	100%以内
	②広報・研修費	200	200	200	600		100%以内
	③事務費	100	100	100	300		100%以内 (上限100千円/年度)
	④諸雑費	40	40	40	120		100%以内 (上限40千円/年度)
年度ごとの合計 ^(注4, 6, 7, 8)		5,400	5,700	5,700	総合計 16,800	1～3の合計5,000千円以内/年度	

- (記入時の注意事項)
- 注1：提案計画の助成金と自己負担金を含めた概算事業費（予定金額）を記入してください。計画がない項目や細目は、0（ゼロ）となります。
- 注2：民有地緑化の緑化整備等経費には、最低10%の自己負担金が必要となります。（助成金申請時に、自己負担金が用意できることが助成金交付の要件となります。）
- 注3：地域緑化活動の助成項目では、1年度につき1,000千円が助成金額の上限となります。
- 注4：民有地緑化、景観木保全、地域緑化活動の助成金の合計は1年度につき5,000千円が助成金額の上限となります。（3年度総合計の助成金額の上限は、15,000千円です。）
- 注5：千円単位で記入してください。（なお助成金額は、千円未満切り捨てとなり、端数は自己負担金となります。）
- 注6：本概算事業費の年度ごとの合計金額を上回る助成金の申請はできません。
- 注7：年度ごとの概算事業費を作成することとし、年度間での助成金のやりとりはできません。（年度ごとに助成事業を完了させる必要があります。）
- 注8：上限内での年度ごとの項目間、細目間での事業計画の見直しは、可能です。（28年度の地域緑化活動における維持管理費を増やし、その分の広報研修費を減らすなど）